

1. 課題の背景：

オンライン日本語学習講座は地域の日本語教室等でゼロ初級の学習者の受け入れが難しいという課題を解決するために設けられたもので、この講座修了後は地域の日本語教室や日本語サポーターとの学習機会等での活動につなげることを目的としている。しかし、修了後、実際にそのような活動につながっているかどうかは把握できていない。もし「つながっていない」のであれば、その原因を探り、「つなげる」ためにはどうすればいいか検討したい。

2. 実施の内容：

	実施内容	研修で学んだこと・考えたこと等
2024年 8月	地域日本語教育コーディネーター夏期研修Ⅱ	【学んだこと】 <ul style="list-style-type: none"> ● 学習者が地域の日本語教室等について自ら情報を得るための日本語を授業に取り入れる ● オンライン日本語学習講座受講者（これまでの参加者含む）の交流の場を作る（対面・紙面・オンライン等）
2024年 11月	1. 今年度オンライン日本語学習講座入門コース（7月～10月開講）修了後の受講者にアンケートを実施 2. オンライン日本語学習講座入門、初級開始	【アンケートで明らかになったこと・考えたこと】 <ul style="list-style-type: none"> ● 家の近くに日本語教室が無い学習者が多く、オンラインでの受講に頼らざるを得ない。 ● 地域の日本語教室や日本語サポーターについての情報はアンケート実施時点においては情報が行き届いていない。 ● 身近に通える日本語教室が無いということは、学習者にとっての居場所もあまりないのではないか。 ● オンライン日本語講座は日本語の授業のみを行っており、授業の前後やカリキュラム中に学習者が授業以外の日常の会話をする機会はほとんど無い。
11月 下旬	地域日本語教育コーディネーター秋期研修	【学んだこと】 <ul style="list-style-type: none"> ● 授業の中、コースが終わる2、3回前から日本語サポーターについて触れる、お知らせする。 ● オンライン日本語講座のカリキュラムのうち、何回かに1回、母語でもOKなフリートークの日を設ける。 ● オンライン日本語教室と地域の日本語教室の中間のサロンのような場を作る。 ● 地域の日本語教室に学習者についての引継ぎをする。 ● つなげるのは地域の日本語教室だけではない。日本語サポーターがオンラインも可能であれば、そういった機会の提供もできる。
	岩手県国際交流協会と相談	【国際交流協会から】 <ul style="list-style-type: none"> ● 日本語サポーターはオンラインでも可能。県内各地からの依頼に応じて対面・オンラインの希望に沿って岩手県国際交流協会が可能な限り紹介している。オンライン日本語講座最終日に、地域につなげるために県内の日本語教室と日本語サポーターの紹介をしている。 ● フリートークについては、オンライン日本語講座の最終日に実施する予定である。

		<ul style="list-style-type: none"> ●今年度のオンライン日本語学習講座はすでにスタートしているものであり、人間的にも難しいところでもあるため、すぐに実施することは難しいが、参考にすると回答。 <p>【考えたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●来年度に向けた話し合いの場で再度相談する。 ●次回のアンケートに以下の質問を追加する。 <ul style="list-style-type: none"> ①オンライン日本語教室のメンバーと授業以外の話をする機会があればしてみたいか。 ②そのためにどんな方法が可能だと思うか。 ③タイミングはいつがいいか。 ④日本語学習を続ける上で、どんな情報が必要か。
2025年 1月末	岩手県地域日本語教育コーディネーター打ち合わせ	今後のオンライン日本語講座について提案をする予定だったが、事業主体である県がeラーニングによる日本語学習の機会の提供を予定しており、オンラインに関しては来年度はひらがな・カタカナの授業のみに縮小することになった。
	昨年度オンライン日本語学習講座初級コース修了後の受講者にアンケートを実施	<p>【アンケートで明らかになったこと・考えたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オンライン日本語講座に参加するにあたり、学習者は会話や発音、新しい言葉を覚えることを期待している。 ●オンライン日本語講座で自分にとって難しいと感じていた文法を使い、会話の練習がたくさんできたため、楽しかったとの声があった。 ●オンライン日本語講座修了後は地域の日本語教室に通っている学習者や日本語サポーターと学習している学習者も複数いることが分かった。 ●「地域の日本語教室に通い始める前にオンライン日本語講座で勉強してよかったと思うか」という質問に対しては、地域の日本語教室に行っている学習者全員がよかったと回答し、「新しい語彙や文法など日本語の基礎を学び、日本語を話すことに自信がついたため」「分からないことは質問することができたため」という理由が挙げられた。

3. 今後の予定

	実施予定	実施内容
2025年 2月	オンライン日本語学習講座にて「情報を得るための日本語」を授業に組み込む。	●授業後、地域の日本語教室に行ってみたいか、現実的にける距離なのか確認。
	オンライン日本語学習講座初級コース修了後の受講者に同様のアンケートを行う。	●前回のアンケート+追加質問を加えたアンケートを実施。
2025年 3月	岩手県国際交流協会に報告・振り返り	オンライン日本語講座の振り返りの際に今回のアンケート結果を報告・共有する。

4. 今後の展望

今までオンライン日本語講座の一講師として関わっていたため、授業内の決められた枠の中で工夫することしかできなかったが、昨年12月から岩手県の地域日本語教育コーディネーターになったことで、今後総括コーディネーターや他のコーディネーターの方と今後に向けた話し合いができるようになった。今後、オンライン日本語講座は縮小されることとなったが、今回研修で学んだことや研修で実施したアンケート結果については国際交流協会やコーディネーターと共有し、これらを活かして「学習者を地域につなげる方法」を模索していきたい。